

『きよせ葉つきサラダ大根普及ファーム』の取り組み
新たなブランド野菜
「葉つきサラダ大根」の創出へ

きよせ葉つきサラダ大根普及ファーム
会長 石津 和幸



『葉根っ子』栽培状況



ネットハウス

東京都清瀬市は、都心から北西約25kmに位置する首都圏にありながら、農地が市内の23%を占める都内屈指の野菜産地です。49歳以下の若い農業者が37%を占める元気な産地であり、ホウレンソウ、ニンジン、サトイモ、ダイコン、ゴボウ、カブ等が生産されています。また、東京都の事業を活用して農業散布低減型ハウスの導入（平成15～16年に2.5ha）など、環境保全型農業にも積極的に取り組み、平成18年4月現在、56名のエコファーマーが認定されています。現在、清瀬市では生産者、行政、JA、民間企業と連携して、消費者ニーズにマッチしたブランド野菜の創出をめざした取り組みをすすめています。

消費者ニーズにマッチした
「葉つきサラダ大根」

消費者ニーズが多様化し、特に小形で調理が簡単なサラダ向け野菜への需要が拡大しています。このことに着目して5年前からミニダイコン

の試作を始めました。この中で、根部の肉質がやわらかく、甘く、葉の形状や品質に優れた「葉っぱの先から根っこの先までまるごとおいしい！」サラダ大根に出会いました。これが『葉根っ子』です。



『葉根っ子』包装商姿



『葉根っ子』出荷商姿



出荷



『葉根っ子』出荷目ぞろえ会

販路の確保を ブランド化への第一歩に

ブランド化に向けた生産体制の確立と並んで、販路確保の取組みを行っています。私たち自らの市場への売り込みと合わせて、市では農業振興の一環として市長による市場や量販店へのトップセールスにも取り組んでいます。この結果、生産者が希望する価格で販売できる販路が拡大しています。

「きよせ葉つきサラダ大根 普及ファーム」誕生

平成18年4月、市内の生産者12名で「きよせ葉つきサラダ大根普及ファーム」を結成し、4月28日には出荷に向けた検討会（目ぞろえ会）を開催しました。普及ファームの会員、農業委員、市長、市役所、JA、市場3社、地元量販店、雪印種苗、普及センターが出席し、出荷規格を統一しました。出荷箱は62.5cm×33cm×15cmとし、根長は22～25cm、おいしく食べ

られる葉をテープで結束し、鮮度保持と持ち帰りやすさ、さらに高級感を出すために、キャッチコピーや市のマークを印刷した透明フィルムに入れること等を確認しました。関係者から「小さくて新しいダイコンは、第3のダイコン革命となるのでは！」と大きな期待が寄せられました。

消費者に責任を持つ 生産体制の確立を

今後はさらに食味や葉の利用をPRし、試食販売などサラダ大根の普及活動をどう展開していくかが課題です。ダイコンでのエコファーマーの取得と東京都生産情報提供食品事業者登録制度を活用して、消費者に責任を持つ生産出荷体制の確立に向けて努力していきます。さらに、出荷量を徐々に増やすとともに、安定生産技術の確立をめざして、関係機関や業者との連携で、省力技術の開発や減農薬栽培を前提とした作型開発を行っていく予定です。

